

市長と語ろう！笠間タウントーク 第7回 議事録

開催日時 平成21年7月24日（金） 午後7時～8時30分

開催場所 社会福祉協議会宍戸支部会館

参加者 市民 29人

《フリートーク（意見交換）》

1. ゴミの減量化について
2. 県道大洗友部線の拡幅について
3. 宍戸橋の改修について
4. 支所のあり方について
5. 宍戸駅にベンチを設置してほしい
6. 宍戸小学校児童クラブの設置場所について
7. まちづくり宍戸塾と行政の関わり方について
8. 宍戸橋改修、県道大洗友部線拡幅、涸沼川改修が懇談会后、休止された理由を県に確認してほしい。（まず常磐線陸橋を改修することが必要ではないか）
9. 少子化対策（出会い創出事業）について
10. 下水道について
11. 職員の待遇について
12. 地場産業に対する支援について
13. 防犯灯について

《内容》

1. ゴミの減量化について

【意見等】

ごみの減量化について、市内には、大小1500店もの自動販売機があるが、ゴミ箱またはゴミかごが設置されていないところがたくさんある。条例の中で設置を義務付けてほしい。ゴミを発生させる可能性があるところでは、ゴミを回収する義務があると思う。

【回答】

ゴミの件については、ペットボトルをはじめさまざまなゴミが散らかっている現状をいろいろなところで見かけます。自動販売機については、基本的には販売者に回収義務があると思います。また、ペットボトル等でジュースを飲む人のモラルの問題だと思っています。ゴミ箱やゴミかごの設置を条例で義務付けることは、いろいろな角度から検討する必要がありますので、即答はできません。法的には、絶対にできないということではないと思います。この件については、よく勉強してみます。

2. 県道大洗友部線の拡幅について

【意見等】

県道大洗友部線は、道幅が白線と白線の間で3m位しかないところがあり、児童生徒の命にかかわる問題となっている。涸沼川の改修や宍戸橋の架け替えを待っていると、県道大洗友部線の改修はいつまで経ってもできないので、県にお金がないのであれば、地域活性化臨時交付金を一時的に立て替えて市が実施できないか。また、大型車も通り、現状のままだと非常に危険なので、大型車を進入禁止にするなどの措置を講じないのか。

【回答】

区画線およびガードレールについては、改めて県にお願いし、対応していただくことになっています。交付金を臨時的に使うことについては、県の管理する道路なので、基本的には県が実施することになり、市への交付金で実施するのは非常に難しいです。

涸沼川の改修、宍戸橋の架け替え、県道大洗友部線の改修の3つの事業については、平成15年のころ、旧友部町のときに合意形成を得るための地域説明会を実施したと聞いています。大方の住民の皆さんの合意を得て、その旨を友部町から県に伝えて、その後、間が空いてしまった。行政の

方で途中経過などを説明すべきだったと反省しています。県でも当時の町の意向を受けて、進める方向でいたと思いますが、そのころから三位一体の改革などで公共事業がどんどん削減されてきて、なかなか、次の段階に踏み込めなかったというのが現状だと思います。市としても、決して、この状況でよいと思っていないので、県にいろいろな形で折衝をしまして、何らかの方法でできないか話し合いをしています。もう少し時間をください。

3. 宍戸橋の改修について

【意見等】

最近地区懇談会を行い、南小泉から宍戸小学校に通ずる通学路のことで、宍戸橋が古くて狭く、子どもたちが身の危険を感じているので、拡幅もしくは架け替えを早急にやってほしいという意見が出ている。早急に行政の方で考えていただけないか。

【回答】

歩道だけの橋をかけるのは不可能であり、架け替えしなければなりませんので、橋と河川と道路の3点セットで事業化を進めているのが現状です。

旧355号については、県が管理している道路です。地元からの要望として、南小泉側の歩道の確保について県にお願いした経過はありますが、県としては、昭和54年度にバイパスを作り歩道を設置したということで、さらに歩道を作っていくのはなかなか難しいということです。3点セットで実施すれば、ガソリンスタンドからはなさかまでの区間については、片側歩道の設置・車道の拡幅、さらには宍戸橋の架け替え、大洗友部線改修ができると思います。現在、1日でも早く整備できるよう県と交渉していますので、ご理解いただきたいと思います。

4. 支所のあり方について

【意見等】

合併して4年目になるが、先ほどの説明では、予算の赤字もないし、財政的には、県内で中ほどに位置にしている。ある程度体力があるうちに、支所のあり方について、スリム化が必要だと思う。例えば、中期ビジョンがあるのか、現状の形をどのように変えていくのか。公民館や図書館を利用し、岩間地区で実施したような形を取れないか。

【回答】

若干支所の課の数は減らしましたが、合併後4年間は、支所を大幅に変えるのは、住民の皆さんにサービス低下のイメージを持たせるので、やらないという方針でやってきました。一方で笠間支所が老朽化し耐震化の問題もありますので、内部組織ですが、今年度、支所のあり方の検討をスタートさせる予定になっています。内部で検討して、外部の意見を聴きながら、さらに組織を縮小するのがいいのかどうか、しっかり議論して、支所のあり方の方向を出していきたいと思います。

5. 宍戸駅にベンチを設置してほしい

【意見等】

社協宍戸支部では、毎年、青少年健全育成の地区懇談会を実施している。その中で高校生の服装等についての意見が出ている。また、高校生が電車を待っている間、地べたに座っている光景が見られる。これらは、青少年の健全育成にはよくないと思うが、高校生を批判するばかりではなくて、ベンチが少ないということもあるかと思うので、トイレの改修とあわせて、ベンチを設置してほしい。

【回答】

ベンチの設置については、行政がするのか、JRがするのか分かりませんが、相談してみます。高校生に限らず、地べたに座っている姿は見るに耐えないものがあります。

6. 宍戸小学校児童クラブの設置場所について

【意見等】

宍戸小学校の児童クラブの建設について、秋ごろから工事が始まり、独立した家屋になると聞い

ている。これは、友部小、北川根小、友部二小と同じ状況になるわけで、とてもよいことだと思う。場所は体育館の前ということを知っているが、そこは低学年の子どもたちが遊び場にしているところで、これができる子どもたちは学校に行っても遊ぶところがない。それからお迎えのときに、どのようにやるのか、正門なのか南側の門なのか考えてしまう。学校敷地がとにかく狭いので、いろいろな面で難しいところがある。

また、宍戸地区にとっては、宍戸小学校は、おらが学校だと大方が思っている。敷地なども総合的に見る考え方はできないか。かつて、友部中学校の校舎を一番西側に作ったときには、地域の代表が集まって、地域でも使えるようにとか、バスが出入りできるようにとか、いろいろ論議をしたと思う。宍戸小学校の場合も、校地の状況をしっかり把握して、場合によっては、それぞれの代表が集まって、道路の付け替えまで含めて検討してはどうか。すぐに作らなければならないという苦しい面もあるかと思うが、今後の見通しなど、考えを聞かせてほしい。

【回答】

宍戸小学校の校庭の拡張については、合併前から南側に拓げていく考え方を持っていて、それは現在も変わっていません。道路の付け替えを念頭に置いて拓げていくというのが基本的な考え方です。具体的に何年度までに実施するということは、なかなか答えづらい状況です。児童クラブの場所ですが、決めるのにも学校側と何回も十分に話し合っている経過があります。行政は何をやるにしても、特に地域との係わり合いが深いものは、勝手に決めてしまう手法は持っていません。できるだけ、地元の方に説明したり、話をしたり、そうしないと地元の方が納得しません。行政としては、できるだけ合意形成をとってやっていくのが進め方の基本です。話し合いの中で、場所が最終的に今のところに決まったということです。

【意見等 2】

体育館の前ですか。夕方の迎えの出入りはどこからですか。

【回答 2】

体育館の南側です。迎えは南側の門からになります。

【意見等 3】

南側の門は、夕方は車の抜け道です。事故が起こっているの、その点を十分に考慮してほしい。

7. まちづくり宍戸塾と行政の関わり方について

【意見等】

宍戸小学校児童クラブの設置場所の問題については、住民との話し合いがあっただけだと思える。学校の建設・改築については、行政と相談しながらやっていこうということでこの宍戸塾ができたわけだが、今回は全然話がない。これまでの経緯もあるので、まちづくり宍戸塾を有効に利用してほしい。

【回答】

宍戸塾の皆さんは、地域に密着して積極的に活動しているのは、重々承知しています。いろいろ行政が仕事を進めるときも大変お世話になっていきますので、その考え方は同感ですが、児童クラブの場所を決めるのには、宍戸塾との協議が必要だという認識はありませんでした。通常、児童クラブの設置場所を決めるのは、学校やPTAと話を進めていけばよいというのが行政の考え方です。

宍戸小学校の児童クラブについては、定員40名で見えています。希望者が多いので早く作りたいということで始まった事業です。昨年からは教育委員会と学校と十分に話し合っただけで、あそこにある遊具を取り払っても、そこしか建設する場所がないということで了解してもらって決定した状況なので、再度、学校と話しても同じ位置になってしまうと思います。

【意見等 2】

早く作るの結構です。設置場所によっては、敬老会の運営にも関係し、不便を感じるようでは困るので、住民とも協議をしてからやるべきだと思うが、もう建築確認申請するという事になっているので、それはもういい。

【回答 2】

行政の進め方の問題だと思いますが、相談してほしいというのは十分わかります。

【意見等 3】

問題点を指摘されたわけなので、手続きが進んでいるからどうのこうのではなくて、一時保留して、早急に地域にとっていいものなのかチェックしてください。

【回答 3】

この場では、状況が分かりませんので、後で確認して連絡を取らせていただきます。

8. 宍戸橋改修、県道大洗友部線拡幅、涸沼川改修が懇談会后、休止された理由を県に確認してほしい。(まず常磐線陸橋を改修することが必要ではないか)

【意見等】

宍戸橋と県道大洗友部線の狭隘の部分の話が出たが、5年か6年前の話し合いで、すべての地権者が了解したが、何年か経って、1軒の方が反対し、それで計画が頓挫したと聞いている。市で県によく内容を確かめてほしい。

また、山口県の豪雨の話があったが、もし涸沼川流域にあれほどの豪雨が降った場合、間違いなく涸沼川は氾濫する。涸沼川に常磐線の陸橋があり、その幅員が河川の幅員よりも狭いので、まず、その陸橋を改修する必要があると思う。JRとの協議になるので、なかなか進まないし、お金もかかると思う。

【回答】

よく確認しながら、改めて県と話を進めていきたいと思います。陸橋を拡げるのは、大変な作業になると思います。

9. 少子化対策（出会い創出支援事業）について

【意見等】

少子化対策についてお聞きしたい。40代、50代の男性でお嫁さんをもraitたくてももらえない人がたくさんいる。それは、決して市の責任ではないが、少子化対策として出会い創出支援事業に市としてどれくらい力を入れているのか。市では、出会いの場を作れば、お金を出す、市では、企画はしないと聞いている。やっぱり民間の運営だと出る人も用心してしまって、参加者も少なくなると思う。市では、実際にはどんなことをやっているのか。

【回答】

少子化対策というのは、笠間市だけの課題ではなくて全国的な課題です。笠間市も平成20年度から重要施策に位置づけて取り組んでいます。少子化というのは、地域や日本全体に与える影響が非常に大きくて、将来的にもいろいろな課題があります。市では、出会いが一番だということで、大好きいばらきの下部組織で大好きかさま結いネットという組織がありまして、年3回、パークスガーデンで、出会いの場作り、昔風に言えばお見合いパーティーのようなものを行っています。もう一つは、ライオンズクラブが主催して、毎年1回ですが、出会いの場作りということでお見合いパーティーのようなものを行っています。去年は確か5～6組のカップルができたという話を聞いています。行政が実施するとどうしても堅苦しくなってしまって、参加する人が少なくなってしまうので、民間で自由にやっていただいたほうがいいと思います。

10. 下水道について

【意見等】

私が住んでいるのは、行政区は橋爪で、地番は矢野下です。私の家を含めて3～4軒について、下水道がいつできるのか聞いたときがあるが、将来的にできないかもしれないと言われた。下水道ができなければ、どうするのかという疑念を抱いた。

【回答】

下水道については、担当がいないので、即答できませんが、現状では、住宅密集地、友部地区では、パークスガーデンプレイスのあたりを集中して整備をしているところです。おっしゃるところが、下水道区域に入っているのか、入っていないのか、今、分からないので、後でよく調べてお答えします。計画区域に入らなければ、なかなか難しいということです。

1 1. 職員の接遇について

【意見等 1】

行政サービスのお客様への接遇について、当たり前のことだが、あいさつをするときはお互いに正面を向いて行く。市役所に行くと、カウンターを挟んで、職員は横向きに机を並べて、横向きに座ってパソコンを動かしている状況にある。住民の方がカウンターの前に来ても気が付かないこともたびたびある。当然、「すみません」「あの」とか声をかけて、やっと返事が来る形なる。いつ来てもすぐ対応しますという体制ではない。だから、挨拶の言葉・返事もワンテンポ遅くなる。やっぱり、サービスを提供する側に待ちの体制ができていて、正面を向いて率先して声をかけていくのは当たり前のことだと思う。おもてなし、出会い、感動などの言葉はよく聞くが、ちょっと些細なことだが、考えてほしい。考えを聞かせてほしい。

【回答 1】

窓口の対応やあいさつのことですが、いろいろなところで意見をいただきます。いろいろな研修であいさつの励行とか、定期的にアンケート調査を実施し、その結果を公表しながら、改善に努めているところです。今後も継続的にやっていきたいと思えます。職員も気にしながら仕事をしていると思えますが利用者からすると一瞬のことですから、振り向いてくれないことに違和感があると思えます。だからといって、いつも正面ばかり見ているわけにはいかないの、その辺は、声をかけていただければと思います。机の並べ方にもよりますが、振り向かないと気が付かないというのは事実です。住民の方が窓口に来たら積極的に対応するとか、目があったら会釈をするとか、挨拶をするとかは基本だと思いますので、指導していきたいと思えます。

【意見等 2】

市の職員と民間では、根本的に違うところがある。市の職員は、大事な仕事をしているのに何か御用ですか、用があるなら声をかけてくださいというような感じです。ところが、民間は、お客さんが来て始めて仕事ができる。それで食べていける。職員は、税金で食べていけますから、そこが根本的に違う。民間は、お客さんの姿が見えたら、すぐ「いらっしゃいませ」です。ぐずぐずしていると事務所に入らずに帰ってしまう。そのところの認識が足りないと思う。

【回答 2】

よく分かりますが机の並べ方を変えるのは難しいと思えます。

【意見等 3】

カウンターの中の机は横向きでもよいと思うが、カウンターにも正面を向いている人が独りでもいれば、まったく違い、応対も早くなるし、声かけも当然早くなると思う。カウンターそのものに一人ぐらいいて、事務をしながら、応対をする。難しいことがあったら、その後ろで事務をしている中で、よく知っている方に引き継ぎをする形がいいと思うが、今後、検討してほしい。

1 2. 地場産業に対する支援について

【意見等 1】

笠間の地場産業や地元の中小企業の振興支援について聞きたい。緊急雇用対策事業費として、3500万円計上されている。これはあくまでも雇用対策だと思うが、地元中小企業が活性化しないと雇用も伴わないと思う。地元中小企業の支援・振興策について、今後、どのように考えているのか聞かせてほしい。

【回答 1】

行政は、商店と企業は切り離して考えています。市内には、いろいろな企業がありますが、企業の活性化、業績向上は地域に雇用とか税金の面で大きな効果をもたらしますので、去年一昨年から企業誘致推進室を設け、企業誘致だけでなく、市内の企業支援という観点からも事業を進めています。市内企業に投げかけて「がんばる企業応援団」というものを作り、企業に対する研修会を開くなど、まだスタートしたばかりで、現在、50数社が参加してくれています。そういう窓口をしっかりとさせることによって、企業が抱える地域での問題であるとか、いろいろな相談事を一括で受け

付ける、いわゆるワンストップサービスのような形にしようということでやっています。今年、企業の福利厚生の部分で、例えば、企業内に保育施設などを改修、新築する際の補助制度をスタートさせました。商店街については、支援とはいっても、商工会を通じての自治金融の支援がメインになってしまって、個々の商店をどうするのかということになると、なかなか政策展開が難しいです。商店街といっても、商店が連担し対策がとれるような商店街は、友部地区だと駅前ぐらい、笠間地区だと稲荷神社の前ぐらいで、後は飛び飛びの商店街で対策がとれない難しさもあります。

【意見等 2】

商工会を中心とした自治金融とか、産業育成融資制度とかの方法しか取れないのか。いつも見ているが、もう少し地元の地場産業の活性化が出てくれば、市の歳入、歳出の面でもいろいろな事業が展開できると思う。

【回答 2】

地場産業の振興は当然必要ですし、商店も一つには地場産業と呼べると思います。やはり消費者動向が昔から比べるとかなり変わってきました。個々の店志向から大型店志向になってしまって、食べ物屋は個々の商店として今後も生き残っていくと思いますが、その他の個々の販売の商店が、今の売り方でやっていると難しい状況だと思います。いくら券を配って安くしてもお客さんを待っていたのでは、個々の商店の生き残りは難しいと思います。当然、いい物を売れば生き残れる部分もあると思いますが、売り方そのものを変えていく工夫が必要であると最近思っています。

【意見等 3】

がんばる企業応援団は、誰でも参加できるのか。個人事業主でも参加できるのか。それはいつどこで開催されるか全然分からないが、回覧等でも流しているのか。

【回答】

市内の企業であれば、参加できます。個人事業主でも参加できます。ホームページでも流しています。加入金もありませんので、ぜひ、加入してください。

13. 防犯灯について

【意見等 1】

社協宍戸支部で広報を担当しています。社協宍戸支部でも、地区懇談会をやっていて、私も役目として、何地区かは行っているが、矢野下上郷に行ったときに、防犯灯の設置について地元の人が訴えるには、3年ぐらい、この市政懇談会で設置を訴えてきたが、全然付けてもらえなかったということが印象に残った。区長さんの話によると、防犯灯の設置は3分の2が市で、3分の1が地元だと言っていたが、それは本当か。

【回答】

防犯灯には、2つの設置方法がありまして、例えば、家が全然ないところは行政でつけます。ある程度家が連担しているところは、地元の行政区でつけます。行政区でつける場合には、先ほどの負担割合になります。防犯灯については、学校とか議会とかいろいろなところから要望が出ていまして、市全体では890基予算措置しています。全体で今7600基ありますので、新設だけではありませんが、古い蛍光灯タイプを明るい省エネタイプにする更新と合わせると1割以上の890基を平成21年度で予算措置しています。前年度も、300基は予算措置しています。ここ2年間は相当予算措置しています。

【意見等 2】

宍戸支部で地区懇談会の結果をまとめて、青少年健全育成の委員長から届けるので、早めに対応していただければと思う。